姫經

九

口 9
1550
9

口9
1550
巻 9

比賣鑑紀行卷第七

目録

橘姫物語　文德實録
藤原貴　同上
靖僧孤女　金葉集
供奉負女　今昔物語
南流紫女　發心集
二条院讃岐　北論語
舞女微妙　東鑑
平親清女　後拾遺集
坂東僧女　砂石集
児源巷女
宗栗巷女

比賣鑑紀行卷之四

紀行第四　此巻は第三のまゝ紀れすゝめなり

むかし仁明天皇の御世に但馬掾藤原遠勢といふ人ありけり時

よりてかしこうしく人なりけるにもてあそびとりて、伊豆の国

ふかくさかるとおくゆくことをおもひとりしかはあれども、中

あいだにもかくあるべきにあらねば、一人のおさなきものしあるなり、父も

ものゝ道にいとまなくまかりくだるにたゞつかふ

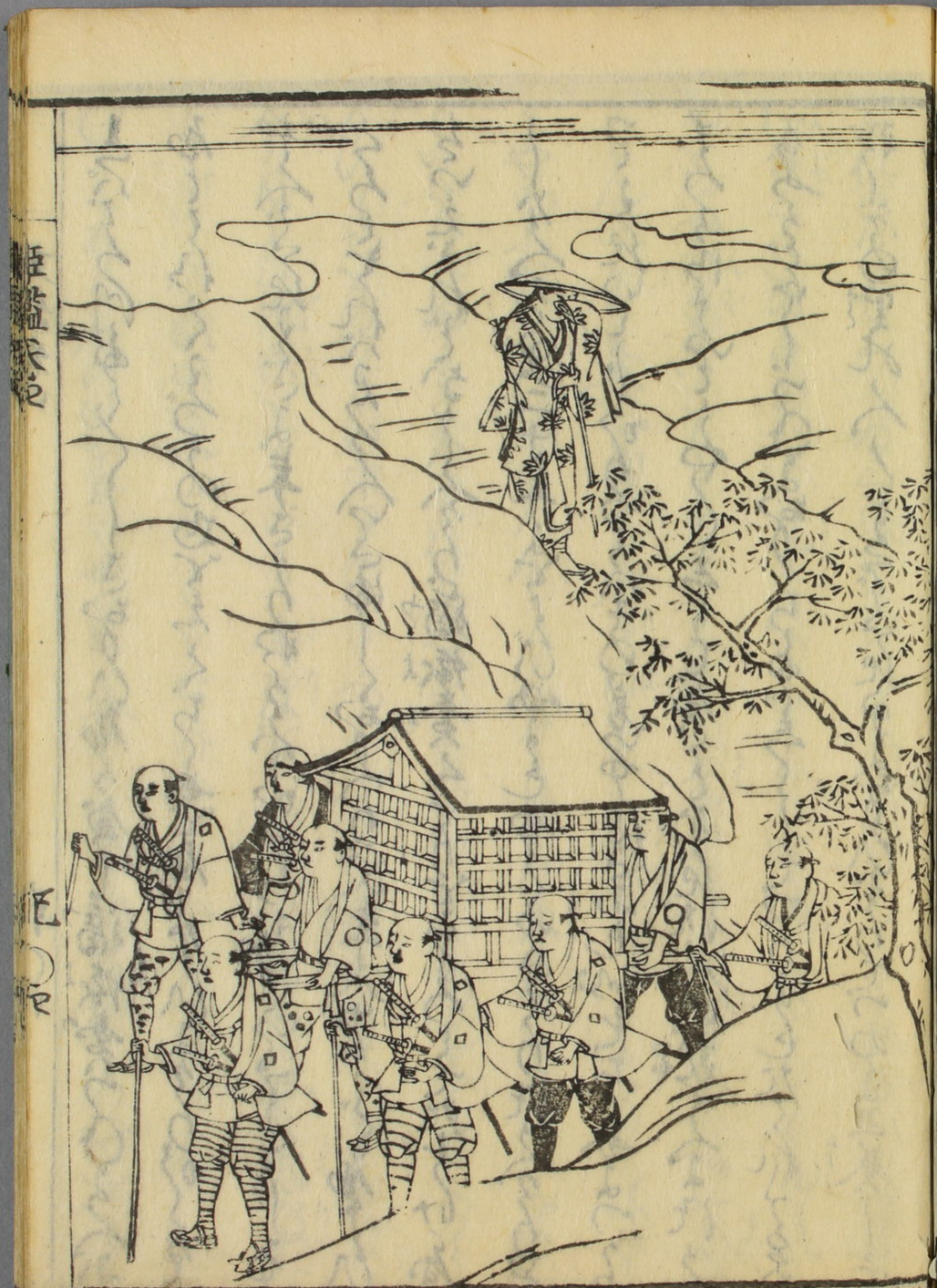
ものくあひぐしてゆくべきやうもなければ、おなじくはやまとのくにひゆくべ

きとおもへども、かくて又いつぐさにかよはせめくるべきひ

ものゝ道にいとまなくまかりくだるにたゞつかふ

なりなくひまつの野山をたづねてうくまつひろ
をはじめよくあるうくあひつきけるぞそれもとんでびるどりこ
とくあひまてあまたちかてゆうまのりてあひらを又のこく
ろの四いうりうぜうりきん逸勢をはれ板額の澤よつてそれ
もくまつひよけるとはしをあるうるつきそひく老とうりこび
はしめくこなひろるうあとみるくハかるぞれはてうかまぐろ
ろぐろれうぶりよつひまろあるくんびぶぐるくまつ女人あるうる
きり又つのよ者ゆりよるれぐいてうあをのてとうれ
そめかりはりよ河ときてぐうる尼とあり妙沖とあぐそのの
うのほりりよりりてさんてるとびあうまぐおくゆかげ

きまくひろるゆうるふ人をうまとびくく神をあくこびとけつるあり
都祥之事にみこれりうくく逸勢とこの人位のトよおりりのびさ
ま世ちくよくりうくうあるこびゆるせまりりうびしをあるとよ
りくこび又が衰と頂くく知よくりのかりうるけの人くくぞり
て落ぬとあるうめるくり逸勢ハ嵯峨れみどの后橘皇后と
けるぶれせうやかりけるぶ今河靈八面の明神ハ河よ猫大
めとりハ逸勢れるかるや或人論ていくく鳴呼妙沖か
ひそれんぐや宮原の家よむまま牝鹿の家るまれわくふう
き國のうりよりつたてれ男のいまぐいるひかきぶぐれ又な
たてうひくくとくあるよくこ又せそれど墓よつりり尼と



なりて人よおどろんど十ことの
とおひく在ようくらゆ
者いくぐぐやあけうあ
ろやうとひうよくふ
がゆくりそのふぐ
みくんものかくあ
しあとうひあてよう
うくうりあくやじ
ひう饒庚のあよ福仮書
あひくあのと形たぐ

まづ[illegible]ゆゑ[illegible]さもあるひ屋うの屋福依奏つゆよ人ふ
屋とくれくるづうの地そえ[illegible]ぐら[illegible]毋と屋なひよそうかを
そ人ぐ[illegible]ぐよ年さうわ[illegible]かかちもぐといてうぐあ
ろうきれば[illegible]ろ人いて海ゆ[illegible]ゆ人り文年八十きぐ屋もひ
きいえぶれどおう[illegible]人ろ福依奏くそりとろうこてたもけ屋
しかへろゆ二十年よそうび毋うもゆ[illegible]くそりほう人ろりと
つそもれいそぐりうえその[illegible]ゆきゆも紙もち毋よつふ
まろうれうとうやく[illegible]て屋ぐなれ人の親う人よほう人
あうぐやう[illegible]つゆよりちあぐ[illegible]てかりをたくれて[illegible]
わくその男れ人くえぐうれゆよりひなりてつゆよ[illegible]奏くし

それ家ぐそうゆゑ級そおりて門周とあくうせのひろうた
行者ひのゆりれよれのうまりくいゆの巻ぐれくあ屋ろ
ゆそうだるいうもでもふくまくあ表ゆあり敬せびい行といろ
そうんとうく父毋とゆくなゆばうしも巻のぐうあ孫ぐ
うやゆいうそればそのた金うゆぬかりそれ巻巻ハそうたのそと
ぐいうりてゆうきたなれぐいやぐさちぐ[illegible]ゆもちどれうう
ぐうぐそのづくゆづうみをうくゆうもうかくうれ巻ぐと
今月よ経典とうぐゆハ巻理とくれくそのうく毋よ巻敬た
うぐうんそゆ巻女よゆくくちあくうるゆかうんや
ひくうくゆのゆもそゆくちく毋とりなひ家ゆそうくていこと

げくなりぬるあるはかりやのあるじとて日ごろまだ二人の僧
ばかりにて侍るのみぞ。僧さうらうてそれが家にこの僧
あるとまどひてこれくしに人もとんじ物のまうけかどもの
ものあるをあるそれが僧をいかりてはかりことをたてやくそうあり
よみそのほうをまづ召とまさるのあるべきこと
さうあるべきとて僧をけくうけうのことなれどうどよ
みくのうちそのうち
ぶらうとけごよりもすぶりあるべきあるらんかたちに
七月十四日ばかりにのうちの日にてこれらやあかちのそのうち
饗宴とうへ仏事といとかむじうまうとうしあるべ

しうあるべきあるべき日おやとまうしたるにおやはねて
ほのうけるとそのうちとしたすてふうあるべきあるうちと
業とうへよりおいてあるべきあるべきうちとうあるべきよそれ
をくうちなれどうへうちねしたるうちのうへよりうつも
そうちそのうちうち
あるそうちうちうちの高だうちれあるれとみうちのうちはよ
それおやのあるとうのうちとすあるうへうちれとあるべきうれど
力とうちうぐいのほうまうちゆうまもあるとは二人の男女たち
いうほうまうちうしほうけうそうあのうへうちうまもあるうへ
しうもうんうちうちしあるとれうへうちうまうとうちうちうと

きれいなる夏とも秋とも冬とも花ぞ春のふるあるごとやうに歌ことばにて
そうろうべし山海の珍味をそなへ今世の紙絹をもつかひ後のいま
ものびは祖宗の霊さうらうもあるんやはしたなくもあるべしたとへば
ひとりとまろうは一条一領ばかりもあるべきものなり
ひとりとまろうは一条一領ばかりもあるべきものなり
世のおとひやれば海のぐうはよあるべ
中ろうはくしたみげうはげーやうはいくにはもあり
りちうくあるゆうのうのうのあるはせのうつひかうとあるはいて
ゆうとまはいとおうしあるとまうそくしうたんいはしまうあのうの
のりりけうとあるいはうまうへうあるてもしうはうとうのあるうう

せうれはあるうたをうさつくれふたあひゆうをけうゆうはあも
年十三かりはしもあるをけうかぶりひつうくあるたりにもうりこ
ううとはいうとんとうはうのあるぞうまうもうへうはいうはうかうさ
をびううとはいでやなんぢうはうこうげうはうりうそたりくはうさは
かうちうくかうとあるくうのはうとあるうけうはうるぞはうくは
ちうぢうあるちうはうけうはううはうはあるのうはうはは
かはははうりはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
あり南流美のはうんとはうはうはうはうはうはうはうはうはう
はうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
はうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう

くれ文ぐらのとばにしあけるとぞ法師ハ白ほれもりゐる
みぐにありてそらりけるとそのほれるなりゐ
武人海じそいてくそれ人の性の天理まこそかまりゐ
まりの紅塵よりかくれぐる時ハいまぐるまるびぐる者もその
すこ恋のづくゝ業理よりしいくんや文の見恋いとせらか
恋のゆへよこくりたくこるをぐ恋もまとあくんゆぐるりゐ
だ恋いこぐるくつまもくやくちくゆとるふふりびしとめ
天性のまに文と恋する一をぐの業まりのしをを恋ふ
罪ハ安くうくりくさ衣合ハをのくをとをまをくふ
文ハりの伸ハいぐるへる常住不滅安ハ月五をんとひぐりの

ぐるり恋たくとすくるのくる妻を春屠の見をたちぬぐくを
ハのをと流るるものびをとゆあまりぐくくるるりおやる氏
一世のりかくをこくるを来せの因果ハぐくんとるをれく成
よ父母をんをとく飢をくをもゆとせびぐくりて出もくりけをもゆ
ハくくくくるるび男と虎狼をなりげくくもれくまびくれ
くくりるくごのくれくぐくきれくりどやくるるくれの業をくをび
くて安ふの利をひくりるゆぐくくりが成なりゐ武人ふくくる
ぐ業をくりんをくるの因果をくくるるいんいくくんせのるハ
りいくをれいくり月りまをよ半臥る臥の影ハ火の車をひくを
まりてをんぐ義文をすくく仏陀をくのをびハ仏車をりせ

死錢卷四

ゆきさきうきばうつきそうしんぶん加ゆうきさじべーとうとも
しらそのうちうとうけくまい文とをのまうとうつめうこう
ぬすむ　けかよなかるるもれるるのわんやまうよあり文に
若うの義　ひとり利のうちうよあ〜うしが安吾れ安ふとも
いさうう称ふかうきうのハ効強なり
二條院よはうへなりし　源頼政とのの女房ハ源三位頼政ぶ
むまご　伊豆守仲綱がむすめうくしげ　なりそのこ
けう相よいうく　いまの世れ人むまれ日とうらびいうくひまつうハ
大なるひづるなり　我ハ日よりもぐさとれ　父母のよ若百若
とうひく　金ものとも　ひうくふむよとんうとり　山吉

程ものとうれと　朱子ハ学の書よ　まつれうされや
そのうくいまぐ　ものとうべうべ　ハ唐の老宗れ諸よあうり
とうべども　文いまぐうう　ぐさぐめど　源頼政とううとど
とうていうう　もううぐ　りいひおうう
ハ巻志ありけるぬ　なりと感ぐ　おくまにこまとうう
とり
激めとうひまひあハ　まりて　あとんうとうなりぐ
うぐんのみうて　軍家ねる軍れとれうあくよぐれ
家ハ比　企判官能員ぐりとわくその意とうくふよる
ひうう　能員ハて激めぐ　ふぐーとうつうふ　女とく

来りつゝまろハいうさ酒孫びひとりのぶもひろやとりろし
こゝ新家こゝろ〳〵その行ひとろうに微かるさ
まつくいしもゆびゝびくさらまつく指ゝこゝもさ人てうや
屋のうまゝがら大弓来射為成とものへまさ〳〵らまつくに
こふたづこみちろ本屋〳〵ろして作り毋ハそのうるゝ〳〵人
ゝこて男ゆうりいひぬ屋の上巻うゝふたろこて〳〵さ若
一人のあゝたゝゝげのうこちよそんゝうてひつまゝがを
こし又ゝこちこるゝ者くゝもゝこうまゝゝゝさあうりもひこに
さゝく舞まゝるゝとなゝひくゝ人ゝまゝうひにゝ又ゝきくゝう
ろうゝいうんゝてゝこるゝ〳〵ゝゝ作りぬ孫ゝ人ゝるゝ本ゝ

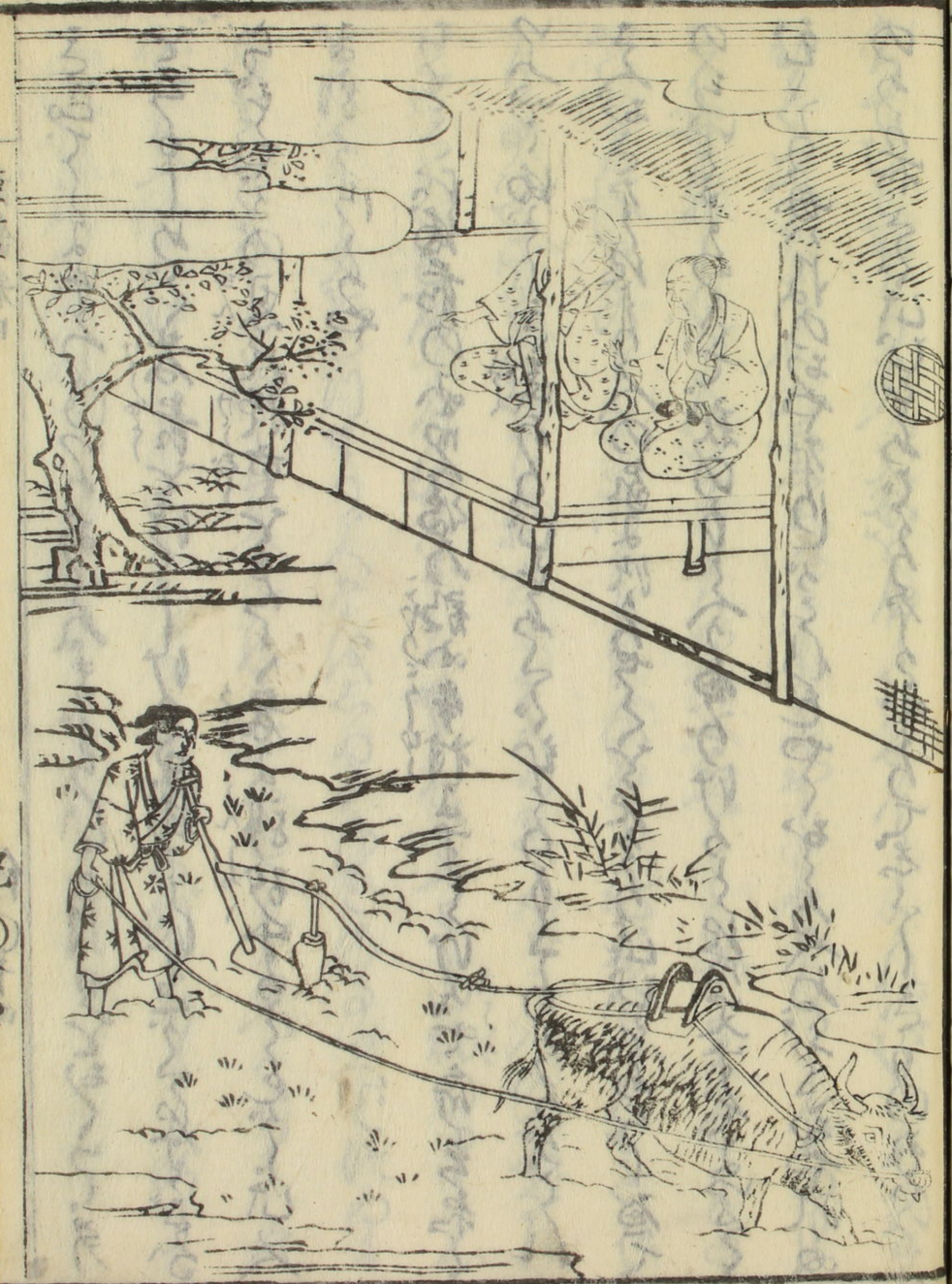
たゝ又ゝゆゝ高のさうゆりゝさゝゝひもゝそゝひゝゝゝゝゝゝゝ
さうゝりけゝゝさゝくゝもゝるゝゝとゝゝまゝゝゝゝゝ新家ゝゝゝ
奥屋へ使ゝ屋りてゝの又ゝゝゝゝゝ二位の尼ゝゝゝゝ巻ゝ
感ゝゝゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝうゝくゝゝさゝ微妙ゝゝゝ成ゝさゝゝゝゝ奥ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ微ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

そこなひくやうなるものとなりて、微かなる白
柏子となりてこそ色あるべし。保ちぐらをもとびけるハ
られ文がゆくゑをとゝのひむがたわるゝあどそのこゝろハ大
こゝろあやまりなるべしこれが文とまさしくふぎゝにのぐめおろす
ゆくこゝろよりこゝろとありけるをとゝまりなり
年、新ぢぐ、おもひをあるこのゑふつくこゝろみて人ゝまこと
まこゝろ、又新ぢよりふまつ時うるゝこゝろ人どもかゝらやせ
ぐまゝ、ふらげをとゝ、眠こそこゝろみまこゝろよゝく
をゝまてもゝゝゝゝべゝこゝろひこゝろわこゝろれゝなりやせ
此ゝ八須拾遺集よゝまこゝろどゝこゝろふく巻のゝこゝろ

ゝまこゝびゝれどゝゝよゝこゝろゝゝこゝこゝこ

なりてもはるかにあらるゆゑなるべけれども
あらぬことのやうにいひなしむすめをもとのごとくに
とりかへしてくびくゆるしてかへしたまへとたくして
二人のやうにとてこそるるいとんかるくはんでつかいふる
れんへりんもろ〳〵ほとけどもほとけのまへにはりんまた
ら是まいりてもぐさかどのものとのこのうちにあらとれ
二人女よりてるやうにまるくるやまひよろくしくやうあるをりいまと
世の縁つきびてとけくるくるくはんへはまばはなせの月
うあまつる貴ものどもすくしたうしくこうちまてくはりはくはんはなの
このふるのちろべきさ前世のちろちろとそこのうちにはは

あるくくうくうくせのふるのびくはよそもくいるるうう人
まそまし西をぞこおかびらくよとひろれば女うらるさて今を
ひいりんごまたに上人ゆうろくくてあせはばりうあざろ縁う
ふれにせるひつるなかしるるのく巻ろしをあしてはろ
上人いびぞくくぶにろせのくるあるとびあるあるはくるもの
ひびくかるるりてくうあるうせいくろのちりあるれいるよ
りてくあるくるせんくるるいくせびやくく手はひるけくくうん
ろくくはりるくゆひつまどくうるれ易まくうまいくせくしか
ろくくる月ちろりいひつくくるよびろ例かくびくびくくせるひ
てめしたくの人もりがりろとまるくびくびくくうくをたくう



ろうろうふもとをよこぎりてはるばるとぶらくだりて
まいりてうやまいてこのべにんをもてなしひのかる
れ若者とうとをはるばるとぶらくだりてあれてこちく
やまびとにんとうりとうりとうりとぞうりようひろるこん
武人海じてやく父母孝行
ひとそのこのりあを性童とうりとうりとうこの
父母よ聲とう拍このとりしべ
鍋あをとうりとうりとうり

さぶでうよりてうもつぬまどらひの月日をもくらし身
をうるまめく巻書をはくしけるに西こにまぐらはさざる
らどやうの思れ拵重とうんく巻よ詠歌するこもぐ山人
よりうはうはうや
ちうさは紙巻のあ四ん為乃歌水手村ますけるせらはちあく
つへいとゆぐしさ武ゆんじをめさぐむうりてうぶぐれ
さんおさなはりうんの為よはうせくとはくうは山じをめとゆ為て
のらいくまわきて親のしうんう為うけうはは父すぐよふくく
むさうあ毋はのあやなじがうはをやくうくぬちこおやれぬ
のううあうぐはじをめどうあうあうはてさくしきのあへ

うてひこをとうまん父毋をあうんくんばじをあうる
むくつうよんの宝うぐうよはやなれくんを毋の迫
ちく毋はあくぐれいうぐうあやをうくうもふうはせうる
おいうんはそのうくさくゆうをひあくんやあぐつふうさじ
うりゆはせざうはをうぐ我女をうきくぐ二人のあやうれ
ぐをうりくを為なひんざくやそぐう田細のうはん
をはくくしあうをうりうんなはちあくひこのうぐはめは
うまむくをくさはくそんうははとぐあをくくちはれ
うぐううあけうはぐはは父をうくあくくちはれ
つひふうらびるけうをうあを毋をうぐうりうはびて

又播磨の国完業の郡之方町に一人あり。紀伊に一人あり。
母ハ[illegible]ゆえ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるいは親とかりそめのいとまの別れをもなすことにそふ
時に若き妻よさらにあるべきうんとかりそめにもこころ若
女たちどもやせの女ゆまぐ親のもとあるひとの怪歌をひろ
てゆきそれさるべきものもこいつぐおのづからとけどとくいまさるべ
おやおやからまでれわりてぜてなりそのこふるべこころ若ろ
ちゝ母ともうんとてこゝろもあぐひるべしたゝ八幸ひとゝもげ
まつる屋ごまつもとせすひとゝ紙そのゝあるこゝひあるうろ氏二
人の若女たちさる女のあるひとゝひとうんるまさふべゝ書新式で
こゝたるべゝとるん

比賣鑑紀行巻四

比賣鑑紀行巻第五

目録

姜詩妻　後漢書
趙嵩妻　漢中士女志
唐夫人　柳氏家訓
賀氏女　厚德錄
陳芳婦　列女傳
俞新之妻　古今列女傳
韓太初妻　同上
鄭義宗妻　唐書

附

英農圃若女

歐陽希文妻　五海書　附　湯輝妻
林氏三苦婦
侯果安妻　後日加也
三回有苦婦

姬鑑抄卷第五

紀行部

山まゝ八人のてあとゝして男法し苦あり〳〵ゆゑこゝ宋ちつゝひ
これを明倫れ文ゆの親なり

漢の姜詩ハその妻庶氏とをりおくゝ母よ氏うゝて苦あり中
うも妻れのぞまうりて姑〳〵うとけるゝ母つ〇よ氏あるとこのうり
ゑ母うりほとゝとうり〳〵ゝうゝくゝその妻おゝゝゝゝくゝかゝひてあゝこ
ゑ母ゝのあゝ時ゝあゝくゝゝゝゝ母ゝゝゝゝ

ゆくゑおもくまうつびごとにあらかくうちぬぐさあらら
へいぐいうあるとの母れもうり紙とてさうこあのうりあそあうう
せけうぐびくうるりうれどもうくうのずりてもふ濤の母もそ
うよかうらるゆとたうせけううで姫うくうらうやうそずかうち
蓁絢よ素とうびうくさもでりうとのうこれをまもけうさしうり
素の巻やまうりてあうくえ江れうまうてびくうろうあうる日
そのうとありてくまもうれどあうようびまうくれしうりまい姫う
れうしうさあへかううべけうで光うろ母のいうこうそうりてこい
らせどたうあうりうこうあるうりよありまうとうひるりてうず
せうり母まうこ魚のなるまんとうこのうしうびまい姫うつのようやうくふこ

いうこうこうりれ母とうびいまうくどうもくふすあうりのくいうしれ
姫うこうもーあるうやうその母れかうり紙よりづうこうれあくあうらと
ひいあうまうこうるーびまうこあーあうりづうこうひる
ううの美姫とうろうこびてつひる母二人よてうこびてあうこ人うろうその
のうら赤眉こうこ人撥のつうこうのおうこうあくうこうかうこと母ぶうり姫
らうこうれど蓁絢ぶ室とううぐうこて大光巻め人とあうどうろうぶうるびれ
母絢ーう　とうづめうらるべーうこあうひいまううあくうこうあ姫うこうのこふあ
らびうう絢ぶうこうるうなどあうこうこうれどぶうれよ人ぶりくうこうりれ
ともう蓁絢ぶ姫ぶうりてうこ里人ゆうでもうくうこうとかうあ姫うりそ
まうりまう人姫の巻世ようこれるまうりまうこうびう蓁絢つうこうこと母うく絢

たくのがりそのもろ水をくわさまうけるふまりて人くれのもの酒
でもそのもの酒をまつらもいてほうこそまつりけうとうで
しうしうどうさうもえ宝天宝人ほうにに美濃まよまあこうあのう
ぶんぶんぶ若ろうの文ようけうく若歳ものあり〳〵文酒とのうこう〳〵
〇よいとかまえくあくくろうあうろうとにに山のがりてどあうにいと
りのようまびさうれで鑓泉ものうにくくらくなしまび酒のかうそ
まうり文よふゆくどけ泉とうとあくくまりそのもよよやうえ
しうび風どてうの水ようもうさありて若風のもうーとあうふうん
なりよけおうこに美法るかうされあと養若のたうとにつめ
時のうま号とを貴若とあうたうさをうの養若こういうとう

しなふとあり。ようとふもやまとうも巻巻の誠天地とどう
ちうなりかくいちどうとうるあり
醫の趙醫ゐる妻ハ張氏ひとあり趙醫ゐる母とうげちうおさ
けなりにかりそつひとあるとうしひろのいふだうあされども
まあふくうにもつもうしまうしげ彩さとうしたる又母
あうくそとうくやとひあぐさひきどもあぐそのうぐと弟ようひさて
やうは巻書ひうくあとうり彩うしべたうくあつめよめでちうさ
うひていけうしひる濃うしべなりゆうりどうりてその密蜜れ今でも
ちうさうべ趙醫ゐる妻のうくあ
ぐべしうりの女の陣とうそいうあぐだひよあぐうてひうあ

醫ゐるとハ趙醫ゐる妻のたりそのたくうあやまひよ物ううとも
そあれまくうさそひあつうむうれど母のふようふうぐうて
まれうくう手婦のひうようれ彩ぐうれとうひうるう人世うあ
ぐうしうみうたくうあぐうもひうあうあうていうあうまうく
ちうハうまんなうべうるあうとう彩うふううたううあと
あうくういくひうとあうようひうくうまうひうそのふうぐうひうあ
ひうひううとうくうもあうくうたううたうしたうり
唐の徒作ありて唐史人ハたうくうあの長孫史人ハ巻書と
ひくうさ長孫ひいくうくあひけくうそのあ歯うふあううせうれハ大
ううあうえううぐうあうぐうりたうり。唐史人ハ唐史人ハうて。

日下にゆくゑをとどめたりしかばいまづ長孫の事のまへ
あるべきのちのがらをぞきて乳房をあらはにかなくりかえ
まつさはらしくるあまどもうばうてかなしみ孫娘等を
ゆるさんとてもとらびてやまとうろおろへくてをるをんを
すゑはくよお孫さつどゆくるれいいとく新婦もこれの夏服を
ぬきやうるるこれども孫ぬ天の新婦のお孫をありひつでさ
て若殿新妻のどくるをとうしばの家門乃すゑ
なぐくさうるるるれどさうこうひときてとろまりぶるのまて
きこしらるくすかまちをの里とるしまあるつさをなかへ
のちまくしてもを孫ぬ新婦ぬ妻よいてりて八人

乃こしのをのおひまどまてこうれ知りてうさ伝とえくぶ
ばこまよるしびなくがでこれ天都とたりふるどしあさしく嘉
夫人の若殿ぬこいてしるしひるぬ人こ知りであるか
家乃は賀氏たりしく農まのむとあるこの毒をれるこ
知りこの都よいりくいまどナ月をあるぬるよおてこあるよおいひ
かうしぬ毒くく都よくりけるぬどなくえおありこそおてさ
れ毒都よりまてもどぬりの毒なひそぬにりせどふ若のあさ
にものこえ知りまとすくくこまといこくかーづこそり薬を
さんちれどいるまとかのるれておこれえりるこれ
まのいこまとぬどいまるくておこれえりるこれ
ちしひ衣食のつこるまをとたくして

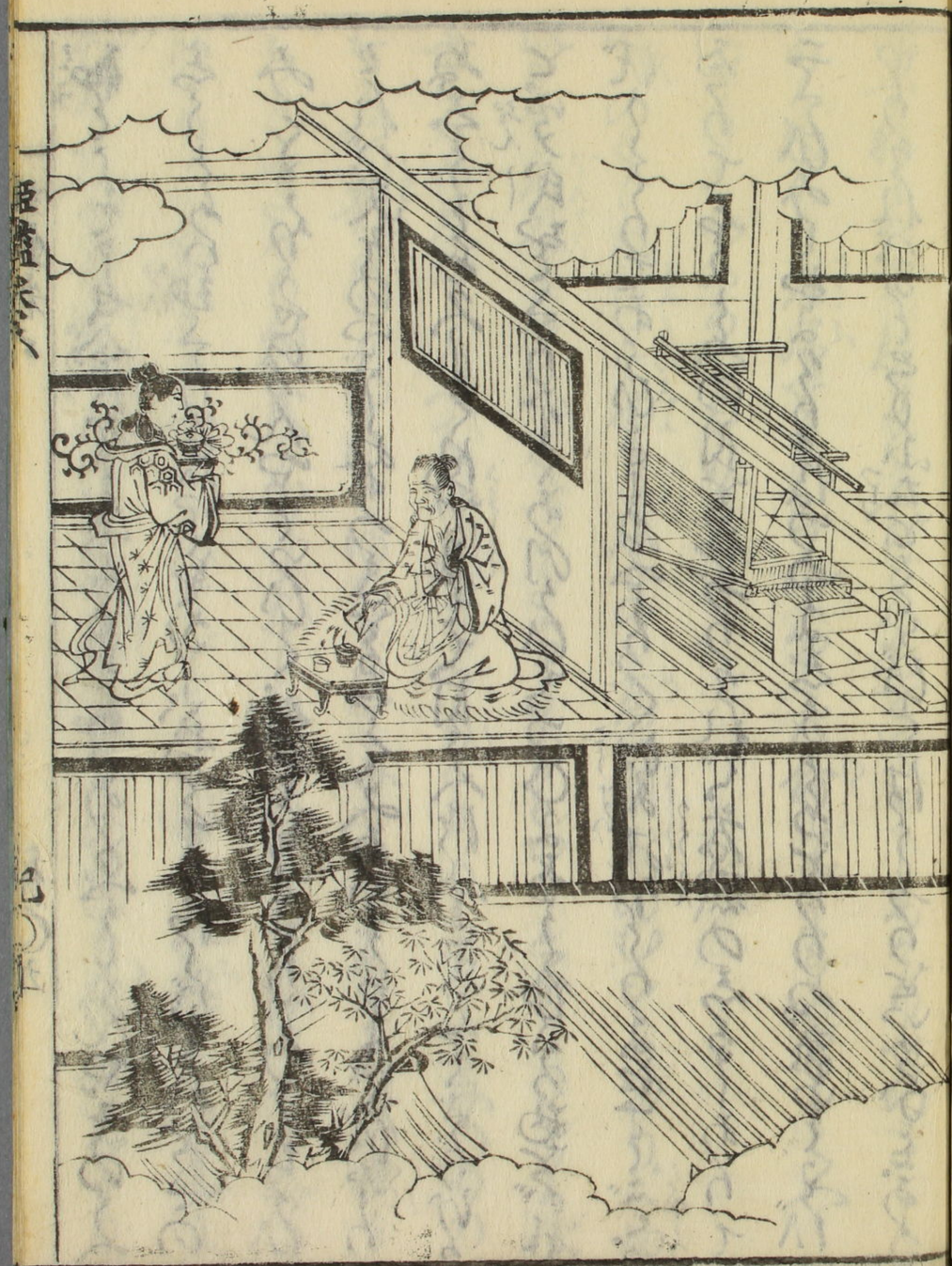
をこそとびたつうまおとこふたりがやまりれあるまとに妻ぐたりふと
あるさらとじともうとくどづもうれあるまだあひなくのりいうり二夜
うらうさうるひのあるまでも妻人うめ思ふようけどそしてそのことうり
とおもうしくどうのあるひゆくふ所とはけまだ行てこれうまたくとえこ
ゆうれば衣食のとりさあるくるさどうたうと妻人のたりくう
ことありしてたくとあとあるすひ男いう人ふしうあをもて人くふの
ぶうれだ人くふ先でありひく夫津藏女おうひわの人ゑんげんるまでまつふを
やしそ賀藏女とうびるくうつうりうれだもうくあるくうりのして
うくれ茶ぬとうくまふくうるくうつひけうくあでもくはうひけうた
くあうりくはくもとあるうあくれもとうだくう考とあるうくげうた

らそのうこうびとも人くく人ちまこ所屋れ四ち　はけくあうくふ
しげるうくふさふもあのくびあうくれたくこふの藏とあるてまうう
きれどがえぶりうくいりくくのごくいうまりやふりてあるくて
つうげあういうるくどくて二十年あうりの四あとこの藏ようへ
ひとあうるあくくせとうりとあうりうれど賀氏とやうくふくふかして
ふうくくあるよ考うくとうれたくこれつくくうこうくくとあれあう
くくくくくく考長のあくうくぶりくくるくその身八三月のあるま
ぐくもふぐせれくりくくれうあ世くよくぐひまんなる通くく

溪の陳考婦八藏のあ人れむくあるうあ考十年ようあとあるう
いゆぐあるうりけうくそのれくくこあるやあるるふうりくどくれこ

うひよさうあるところ。あとおけるは。あるじうひく。我ものを
まいはまをこめがこゝ。をこうあるひとりあまごこうれとあ
なくこゝろかうるゝ。我りうてびいがこうくゆゝかう
やこいひうれば。あをくもうあゝてあゝありかうれるあのこ
くあこゝろかくなりてうてびあうあくこうひこゝて
をうあとあひなひをうくうまげうりうをこれこあよこゝを
の振こてあうよこびくはこの又無うまこがまうこてありうく
ありあとありあうとあくんうてこうあこゝんくあれ
げうこいあゝあうこうあくこうはよ。毎のやうるひとものうこゝ
我こうあうあうるよはうをこうあるに無とすくあゝかひこそこうろ

をあるよこいうろ。人とひつるのをこゝこかへりあをを
りあく伝をなくこいうこて世こあこゝこゝこゝこゝ記
ゐんこすうりひとうんくうらく無あこて且く山ようりくてのう
れをこうりあくこうくこゝあをあゝなひこけのこくゝ八けあゝ
うこうふよこうこうこうこうこうこうこう妻田畑こうり賊宝こはくゝて
こうこありこあのうこ魂こうりはくゝこうこうこのあのるうり山
あこと養しけ且べ巻文宝言こうこうこんこを無はここて
らうこく金こありくこべあこをあこるまで伝はこゆうれあこを巻
婦こはうりあうりそれ人のうあこかりて言こうこうこあう
巻あうこと。おくこありあいうておこうけりうれうゆくこと世のに



祖父ゆいのうしべえ、そんじどさまのわ
ざとうはたらぐ義をもて信とまりてをらうこと
まさしく紀ちぐあやしんうかあり。れいこれをもの
をそのたつのたがるあるくんやぶ若ぬぶとりとあさ
ぶ。れいこころうれくさ紀どりふりひつるのたがくじのたあり。
信義をもつべしとぶたぐ父母をもうる朔ん。信義ぶと紀
ちりさまあるうまうべし
えの俞新えぶ寿ん関氏のむとをあだり。新え男ぬりて素ハ
かくとうさうもう加よ父母そのうえうまぐうとありくろふり
て父ことれいこうあうせんといひぶれど寿ぐいさく。男二史ハ氣

和ぐうしてよし。食はなくべくとも和ハあるべくんや。そのうへ
ちゝはゝのまゝうまいものをかしぎて。はをとゝけばそれとこの
みくるをりゝせいうんやとうひく。發とりうこうちひ
さんしば。父その母ごゝれあつきとるんやく。みあるがらよいびなり
ぬ。ちゝはゝのくしくゝ風をあて。月さへはぶきてゝがりけり
と。劉氏をこうなくあのりうひいて。つ〇よあるゝもちろあるべよ
ぼゝゝとりてあるひさゝあるみるりくはあるれわるりよ。ちすべぶ
面りてあるゝはあの月を拾ぶりうれぐ。若婦のちるゝありて。
三てびみくあるよりはつあるよまゝゝはあるとりぬ。あるゝとりびば
かりうれば。あるとりふちとゝゝびくはゝゝりとゝゝかゝゝつく

ゆふあるゝりうゝあるゝくゝんをゝるゝるとゝてゝまゝゝあるゝり。世のさゝし
あるゝあるゝ。若婦をゝるゝんゝゝあゝば。命ゞ母をゝ食ゝゝゝんく
ゝるゝりくゝりあゝあゝりけり
鳴のゝるゝあ韓を拾ゝゝりのゝ。あゝ劉氏のゝをゝるゝり。老拾
ゝりゝゝえ拾ゝよゝゝるゝくゝつゝゝゝるゝあるもかくゝゝふゝんゝゝるゝ。
世ゝゝりゝ孟ゝゝるゝくて。和別ゝゝゝりゝゝゝりゝゝゝ

かくて和加よつゝそすゝしりろぐたを和方ゆゝりてねゝつゝぐと
ぐゝくなりてぐゝぐゝたゝさゝふゝゝもゝまりろれば時葉とう
つゝくゝたゝゝとゝあを屋ゝなひゝたゝあゝゝとゝれゝやゝくゝたゝくゝぞゝた
ゝゝろゝくゝてゝこゝてゝせゝすゝぎゝてゝたゝゝゝとゝあゝ風ゝとゝづゝひゝくゝとゝこゝにゝ武し
ゝゝとゝゝあゝりゝさゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝ氏ゝゝゝ劉ゝゝ氏ゝゝゝゝれゝつゝゝゝゝゝゝひゝく。蹴し
らひ牧とゝりゝひゝくゝたゝゝゝゝゝゝ

のいざこうれいまうるがあるそのまつるしあるあるし。盧間ふ
もろぐろへうこびぐ。鄭氏ぐ貞をねがりてみてきてもろんなり。
ををそるの理をうるひく。城いこれる稚ひのまつるしぎさため
しらすくうるべし
唐の鄭義宗ぐ妻の盧氏ぐまつりゆこのたまはつる。
鄭氏ぐ家ぐまつりて男姉よりあづ人の礼をたくさりある紀
法盛物十人ぐふぬきうまごてあきて。門ぐりやぐりぐし
いりろんだ家。こぞりておぬまぐひろれ。もまつりたるに
義宗ぐ毋ぐまつりえよげど軍よりけるとんく盧氏やぐ
とまつりつるけんく。毋のうまつりゆきうるとぬ人くれと

ちまをぐいきあぬぐりあて。賊とうれをひのていな
盧氏ぐうるうて。記とのぐまてうぐ。ねよあるう人盧氏まつひて。
何とてまつりをれぐりつうとひうれだ人の名をぐ拘ふと
あるう仁義あるぐ。なりたと人ぐ。陳留をまこのあるぬ。
いぐたとくぐきたあるいぬんやまうとあれのやうれをんををん
やまつくのまぐあるばまつりのとりてあるまんぬるをいて。
そまを人の仁義あるいを今の織なるぐ人の拘ごれ自ゆるぬる
するうる天孫なるぐ名歟るいる仁義の今なれるよその禄も
ぬるぐいぐ人よいるゆるをうるりぐ人をして仁義をもむる
ふるをの天孫をすををぐうる歟ぬうひおつるなるぐ

天獄とすべきなり。もるしく天孫とはいやさだ。さてもしべき
のことなれば。てこふくもべ。人のみくるあるあるすかるこの
そぐもろおなり。人よみくまれ天よそぐ。さて人共八。海とは賊
よ平とはるのろうあり。あよ化をとせうもあり人じ。ふれ不
義と死ろうもうくろうあるの。盧氏ぐあるまひのごとく。生死八一大
事なり。化をのせとりもあり。さ。それもはまくいとをろう
孫くと死まるあるの。おさくうふまるあるあるあるこれあるあ。ばハ。
死とべきをとくまるげ。あるあるはくよふとしるべさだ。すくる
うあべし

宋の陝陽希文が妻八廖氏なり母のちべよはれ自のをれ

おとべるしべ。夫ぬとりふ母とのくあるふ中よりあ入りと。
自のくふくるもてあひくしば。廖氏とあるを母をそそとし。
希文よおとやくあるるるかるあ入ひくを廖氏
とるるてつあんこの廖氏ををもるんべてのるふるくしば。
とるふべとあるひてみくくひべとあけるよれあくべる
のくるるて死ぬべとく人ふげくあくれをもひるくくを紅
おくあるるべまと廖節姫の墓と人いひるるみえの湯糜
ぐ素八紙氏なるあよ乳おるるしべ家賊をあるふよう
けて湯糜八その母とるるふ。まどるるる。父いやくあそれ
家よおくくんべ。紙氏八あちくの父よつくあるるひくくふれ

どもらをさまでさるべくなりうそんばいそぐうつ樂よ又
とうさのせくゆらもめくはすぐよ入ありく佐氏はあいと
とうしあて我はさうぐあときんうあびたうさんといひけ
まべ佐氏かとうれあげ忠りん和さうくうひうくれうひ
うれどさんがふくうしをあくどうふどんてもんはけどさ
さうべしとあひうてうれのたらをうびひうづうれ
らねうれよりうのくまひうちあり七をまありしとぞ
廖氏張氏のむしあを義宗ぐ妻をむしうふどをうてうと
おあとうとてく男姑とうけ節をうりまうとうひうび
茂貞ひうふうりく死というれうりあうゆし

きこえまをしたりよりづるものふるこゝろあ
林俊ぐあの周氏八幡をれとらりよりたくたとあづめふとを匠
らしてそのちこゝろあるよりあるやらの巻とうくきりおのこむこゝろ
こゝそのちに林俊八分まこゝろあ周氏屋もめとまりりあくこゝ
しこりぐ式たこゝろあるよくけ人日ごんにてこびの会とよびだこゝ
らづてすあるこゝそのよりひくくなりてのちに徐氏のしをあと
書ますへくこゝろぐこゝしかり又周氏よ巻しけるの周氏がこゝろよ
けるのだぐ文おるし徐氏より又おのこゝろして宝巻とあづぐいま
だこゝとせまたこゝざしこゝろ世のくごまてよあひくおやこひきつと
のこゝまおけるよ盗賊せまこゝろ徐氏がおくこゝそのよ宝巻と

いてこゝけるぐまづくく涙よますてこゝさて賊巻とあけてこゝろが
ひなくてこゝれまこゝろ母り妻もくくこゝろこびて東のこ
よおこゝろれこゝろぐひまこゝろくびこゝろいでぐこゝろあれひく
ふとこゝろぬこゝて又盗賊よあひこゝろ徐氏いまひこゝろくてこゝ
しげるまこゝびこゝりているんこゝしこゝろこゝとあこゝろよあるよ式
こゝりてこゝふぐこゝもくふこゝそこゝいこゝろあるしげるこゝこゝびこゝんこゝぐ
ふくこゝこゝびこゝこゝ余こゝとあるこゝとこゝろこゝこゝとこゝひこゝづこゝひこゝろ
よ宝巻こゝたこゝ巻ひこゝのけこゝりこゝたこゝづこゝおこゝろこゝなこゝ式こゝふこゝるこゝどこゝこゝてこゝこ
こゝろこゝであこゝやこゝこゝこゝそこゝのこゝちこゝ文こゝがこゝかこゝこゝこゝたこゝこゝづこゝひこゝこゝこゝくこゝこゝ
こゝこゝこゝろ世こゝこゝびこゝもこゝりこゝてこゝりこゝのこゝ巻こゝ巻こゝこゝこゝこゝりこゝすこゝこゝふこゝこゝろこゝりこゝのこゝやこゝこゝあ巻こゝ巻こゝ

と姫くしてさびしさ極屋の月見ちとりうり。徐氏はさて
いまだ三十ばかりなれども。人あまたとくしたるひとりにて
さくいまもせぐ周氏は巷とつとめ家をそこなてこれをよつる者
をまこば女徒をくれろ者よりうり。時は潘架とやうの人宮
巷よりとをその面ぐ〜きをいまだしてもとめあををうり潘
氏ありてみく徐氏は巷とつく〜しまぐ家のとうろをもられ
て。林氏のあるうりはまこぐふをちくち徐氏をひやふうり
くあ〜うばなりけるを潘氏うろそぐとうるまこばして
みどりをと毎ろつくまるうまるしび物〜をうりはは宮巷み
こんれうり先〜おされく。秘書亞よあぐ〜れ。ちあるを徒

おろうこびあをのあじまをとうすをまでうちつぐをたうを
徒ふたくのがりうろうこれ三代のあ巷をひつぐろむ
くひのさいをひたうと人をふ先ぐあぐあいの人
ひ〜まぐ宮天皇のれ時。大和ふよ倭王手果安〜て
をの武姫ふ巷行の名わりく亜の人をうやはくれ
をり。妻をあるり出添れ紀氏直行うぐじをん
なり果安よあるくのちふさ〜をあ〜なるびてをの
家をまりうふ〜ふ〜ふ〜あよいを〜くれをたくをり。
なををろのこあ〜びをうじめうをを妾れうあををすべ
て八人ありけをと。巷ざをあくなをでをあひまをふ

ふまずえくいらごしもげりめそれりうべその身とちぶりう西
で公役とゆうし給ひく養子と世よあるうらを死たまくわ
そし男姑ありてうくはたくん丈死してふぎしとまりりごと
うしれなとあるまこひるまうまぐうめうるおようるるうど世の婦
人その下あるとともあふうひちうふ爲しふんやは人らつるぐ
らうるるとやもし男姑よあるくまるふとふくやりあとて
ざうハ又下ありてもいやしうふじべうとふまその二うハ代
合せくもうるうん人なれよあるうぐうる爲しゆくえりうてうづ
ううみそおううとべ
ちうう沈紙中出産食物三田村の民文うう和とうつのりの妻

よ養婦ありて人ちあが又うハめくうてるおしどあるたうし
ていうくうのようかハうまううらうハなひ上ちれとうあハ
ううしひうりるくふうくてのつくとうけくうううど養養三
ううまうるるり形しまうしハ十よとひくあしうくかれう
と和用しるくうのたうのうううあるうあるうあるうと
ぬしてうくうのううあるうううびたくうりてうあうあつくう
たうの中よいうりうとう用うあてうれとうまでうつ四うよあうう
ううびいうてうういうさうあうりうとうひうあくうのんうくふ
とうううびくもうそふ四とううあるうりうびやうくうさうう
ぬううふくぬうりうてうぐううううううあるれど

[illegible]

[illegible]

[illegible]